

「WHO 統合国際診断面接第5版(CIDI 5.0)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証および
活用のための体制整備に資する研究（4）」

分担研究者 吉内 一浩（東京大学医学部附属病院心療内科/准教授）
研究協力者 松岡美樹子（東京大学医学部附属病院心療内科）

研究要旨

本研究では、WHO 統合国際診断面接(Composite International Diagnostic Interview, CIDI)の第5版、CIDI 5.0の摂食障害に関する部分の日本語版を開発し、DSM-5、ICD-11に基づく摂食障害を同定する診断アルゴリズムを開発する。そしてCIDI5.0をインターネット経由で提供することで、地域の研究者が簡便にCIDI5.0を利用できるシステムを構築することを目的とする。方法としては、英語のCIDI5.0を翻訳し、信頼性、妥当性を確認する。その後、面接員のトレーニング用パッケージを開発し、評価者間信頼性を模擬事例で確認する。Webシステムで使用できるシステムを構築する。患者群を対象に面接を実施し、信頼性、妥当性、面接方法について検討する。今年度は実施者のトレーニングを行い、患者群への面接を開始した。

A. 研究目的

CIDI 5.0の摂食障害領域の日本語版（面接者使用版、自己回答版）を開発し、その信頼性と妥当性を確認する。CIDI 5.0により収集された情報から、精神障害を同定する診断アルゴリズムを開発する。CIDI5.0をサーバーからインターネット経由で提供することで、地域の精神保健疫学調査や臨床研究を行う研究者が簡便にCIDI5.0を利用できるシステムを構築することを目的とする。

B. 研究方法

【1】CIDI 5.0の日本語版の作成、妥当性検討用の面接の作成、トレーニングパッケージの開発

英語のCIDI 5.0の摂食障害領域を翻訳し、少数のサンプルで試行し翻訳の問題点を確認する。妥当性検討に使用するDSM-5チェックリストを面接に使用できるような仕様で作成する。CIDI 5.0面接員のトレーニング用パッケージを開発する。また、webシステムを構築し、【2】の結果をもとに診断ロジックを修正する。

【2】患者群における信頼性、妥当性の検討
患者群を対象に面接を実施し、評価者間信頼

性、面接方法についての意見を収集する。

【3】精神保健に関する様々な専門家との連携に関する検討

【1】で開発したトレーニングパッケージの内容について、専門家からフィードバックを受ける。【2】【3】から判明した課題を踏まえて今後の連携についてまとめる。

<倫理面への配慮>

2021年2月8日に倫理委員会の承認を受けている。

C. 研究結果

今年度はCIDI 5.0実施のためのトレーニングを受けた分担研究者の研究協力者1名が、摂食障害群11名に対し、CIDI 5.0及びDSM-5を実施した。

D. 考察

摂食障害群に対して、妥当性の検証を実施した。現在までのところ、実施に関して大きな問題はないと考えられる。

E. 結論

前年度と合わせて、合計22名の摂食障害群に対し、CIDI 5.0及びDSM-5を実施した。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Kurisu K, Matsuoka M, Sato K, Hattori A, Yamanaka Y, Nohara N, Otani M, Yoshiuchi K. Increased prevalence of eating disorders in Japan since the start of the COVID-19 pandemic. *Eating and Weight Disorders* 27:2251-2255, 2022

2) Kurisu K, Sato K, Matsuoka M, Otani M, Yoshiuchi K. Thrombocytopenia and PT-INR in patients with anorexia nervosa and severe liver dysfunction. *BioPsychoSoc Med* 17, 9, 2023

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし